

# 新基地建設反対名護共同センター ニュース

## 辺野古新基地建設反対 第50回県民大行動



タカラさちか氏



## 五〇回県民大行動に五六〇人

辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議は六月七日(土)に、名護市辺野古のキャンプシュワブゲート前で第五〇回県民大行動を開催した。始まる前に七月の参議院議員選挙に立候補する憲法学者タカラさちかさんが「生きるを政治の真ん中にする」と決意を述べた。三日に国会で開催した集会の活動報告を島ぐるみ会議糸満の大城規子さんが発言。大浦湾に打ち込まれる予定の七万一千本の爪楊枝の模型を掲げ、計画の無謀さを可視化した分かりやすい報告をし、「私たちの声を全国に届けよう」と呼びかけた。

続いて沖縄ドローンプロジェクトの奥間政則さんは、吉浜覚大宜味村議と調査した辺野古新基地建設に使う海砂の採取地周辺で、海岸侵食などが確認されていて大きな環境破壊が起きている現状を報告した。

オール沖縄会議の稻嶺進共同代表は、「沖縄のみんなが力を合わせ、声を一つにして届けることで解決の道を開けるのでは」と訴えた。

沖縄出身者で大阪から辺野古の座り込みによく参加している岸田初子さん(七五歳)は「鬪っている人達に会い、来るたび元気をもらっている。基地反対を周りに広げるのは難しいけれど、大阪でも粘り強く続けたい」と語った。

国外からも平和を願う人々が参加した。カナダから参加した県系一世のビクトリア・チエコ・デイビスさん(四一歳)は、「沖縄は平和を発信するのに重要な場所だと感じた」と語った。

## 浦添西海岸は沖縄の宝 奇跡の海・軍港はいらない

米軍那覇軍港(那覇市)を浦添西海岸へ移設する計画が進行しています。辺野古と同じ県内の基地のタライ回しである。この合意はもう50年も前のもので、世界は地球環境を保護するために投資する時代に変換してきている。

浦添西海岸は、米軍基地の中にあり、開発されずに守られた希少な自然が残る「奇跡の海」です。「浦添西海岸の未来を考える会」は、沖縄県知事、県議会、那覇市議会、浦添市議会へ計画の見直しを求める陳情書を提出した。今年2月の浦添市長選挙の出口調査で、軍港反対が45%賛成17%で浦添市民の民意が示された。防衛省の環境影響評価で、重要な植

物87、動物214種が生息している可能性が指摘されている。新軍港建設と一体に進められる「那覇港浦添ふ頭地区交流・賑わい空間公有水面埋め立て事業」の中止も求めています。沖合の防波堤だけでも2900億円もかかり、沖縄県の小中学校の給食費57年分である。物価高騰で国民生活を貧しくして、軍事予算だけが拡大することは許せない。沖縄の海も山も破壊尽くして、米軍に差し出すなんて到底認められない。埋め立て計画を、子どもたちはほとんど知らない。みんな有りえないと嘆き、男子高校生は、「本当にこの海埋め立てるんですか」と嘆息します。憲法の上に日米安保がのしかかり、平和、豊かな自然と共に生きることが

沖縄では叶いません。アメリカの言うままで、更には、利権業者の懐を肥やすための沖縄の破壊はもう御免です。あらゆる基地問題に県民は忙殺され過ぎている。基地は諸悪の根源です。政権交代を実現し、国民の民意の届く政治にかえていきましょう。

浦添西海岸の未来を考える会世話人  
里道昭美



## 日本政府は核兵器禁止条約に署名・批准を！ 沖縄高校生平和ゼミナール 中学2年 上原



外務省に辺野古弾薬庫に何が保管されるのか、有事の際に核を持ち込まれるのかと質問に、「回答は差し控える、アメリカは個別の核搭載を明らかにしないが非核三原則を理解している」とはぐらかされた。私たちには「核持ち込みは無い」と言つてほしかった。署名質問にも誠実に向き合つてないと感じた。

私たちには核兵器禁止条約に日本が批准するまで諦めずに活動を続けます。これからも署名のご協力、応援を宜しくお願ひします。



私たちには各地平和ゼミと共に、「日本政府は核兵器禁止条約に署名・批准を」の高校生署名に取り組んだ。二〇二二年八月に一万三六二四筆を、今年三月には第二次署名二万二四六五筆を外務省に提出した。沖縄からは四五〇〇筆も集まり、各地平和ゼミと比べても多かった。要請には、沖縄、東京、静岡、愛知、京都、福井、大阪、広島の中・高・大学生六〇名、被団協から濱住治郎さんが参加し、外務省の軍備管理軍縮課の首席事務官に署名を手交し、核兵器禁止条約の批准を訴えた。

沖縄平和ゼミは、県民の強い戦争反対・核兵器廃絶の思いが四五〇〇筆に託されていることや、沖縄が再び戦場や核の島になるのを拒否するということ、米軍の性暴力など人権が守られない状況で破れた核の傘に頼るメリットはないことを訴えた。外務省は、署名を重く受け止めるとして「核兵器のない世界にむけて取り組みを主導していく使命がある」としながらも、現状は「核による拡大抑止が不可欠だ」と言い、締約国会議へオブザーバー参加できないと発言。

私たちには核兵器禁止条約に日本が批准するまで諦めずに活動を続けます。これからも署名のご協力、応援を宜しくお願ひします。